

学校教育課だより

かけはし

「ほめる」こと

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

鳥越 雅幸

「御殿場の小中学校は落ち着いていますね」「先生方ががんばっていますね」「子どもたちの授業中の表情が実にいいですね」「先生方が子どもたちを丁寧に見とっていますね」

これは、管理主事訪問で、長谷川総括管理主事からいただいた言葉です。十月十七日をもって約一カ月半にわたる管理主事訪問が終了しました。管理主事訪問に同行させていただき、市内小中学生の豊かな表情で学びに向かう多くの姿を拝見しました。長谷川総括管理主事からも市内小中

校の教育環境の充実ぶりとともに子どもたちの表れについて価値づけていただきました。各校においては十一月を迎え、各種行事のプロセスを経て、集団としての質が高まり、ますます充実した教育活動が展開されていることと思えます。

さて、長谷川総括管理主事から多くのほめ言葉をいただき、思い出したことがあります。それは効果的なほめ方です。以前、苦言は本人に、ほめ言葉は間接的ということを知ったことがあります。い

学校教育課だより
「かけはし」
【第 7 号】
平成 28 年
11 月 30 日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

くつになってもほめられれば悪い気はしません。しかも、直接にはなく、「○○さんが君のことを○○と言っていたよ」のように間接的にほめられるとさらにうれしくなります。「追究の鬼を育てる」で有名だった有田和正先生も、朝日新聞の「天声人語」を引用しながらほめることについて次のように述べています。

平山郁夫氏が二十代の終わりごろ、体調が悪いのに、日本美術展に出品するため、必死で「仏教伝来」を描いた。しばらくして、有名な美術評論家の河北倫明氏の論評が出た。論評記事の末尾に、平山氏の「仏教伝来」について「おもしろい味がある」と、九字のほめ言葉が書かれていた。

これを見た平山氏は歓喜し

た。そして、「この言葉をほげみにして描き続けたという。」「ボクシングでいえば、ダウン前に救われた」と書いている。

ほめること、特に有名な評論家などが論評することは、「人を育てる」ことも、「人を殺す」こともあるのだと思っただ。天声人語は、この言葉がなければ、後の輝かしい画業はなかったかもしれないと書いている。ほめることの大切さを今更ながら考えさせられた。

伝説の教師と言われた鈴木恵子先生は、「私は「ほめる」という言葉を遣いたいと思えます。「その行為は立派です」とほめるより「そんな立派な行為ができるあなたでうれい」と喜ぶたいのです。ほめるとは先生の喜びや感動を伝えること」と述べています。

坪田耕三先生は、『子どもをほめることはとっても大事です。でもね、ほめるよりいいのは驚いてあげることです。ほめるっていうのは上から目線の言葉なんです。驚くの

は目線が同じなんです』と述べています。

喜ぶこと、驚くことの両者に共通していることは、子どもと同じ目線にたつということです。

静岡県では、「ほめて伸ばそう子どもの力！」を合い言葉にオール静岡で子どもたちの力を育む教育に取り組んでいます。

市内には、学校の全教職員で個々の子どもたちの良さを共有している学校があります。

教育委員就任の挨拶

佐藤朋裕 様

高根地区の清後に居住しております「佐藤朋裕」です。

本年十月一日に教育委員会委員として就任させていただきました。気持ちも引き締め、責任の重さを感じているところでございます。平成二十六年に市議会において、福祉文教委員長を務めさせていただいた際には、お世話になりました。ありがとうございました。

さて、次世代を担う子どもたちを取り巻く環境は、日々変化し、様々な問題が惹き起さ

れることが予測されます。児童、生徒等の健全な成長発達のためには、地域住民の意向も踏まえながら社会総がかりで教育環境を作ることが大事かと思えます。本市においては、「富士山のように大きな心を持つ人になろう」という基本目標を持っています。心の教育は大切なことと思っております。

教育委員としての果たすべき役割に対しては、幅広い視野に立って、深い関心と熱意を持って積極的に取り組んでいく所存でございます。よろしくお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

教育委員就任の挨拶

芹澤えつ子 様

この度、御殿場市教育委員会委員を仰せつかることになりました。芹澤えつ子と申します。私は、ごく普通の母親で、四人の子育てに忙しい日々を過ごしております。このような私が、教育委員という重責を担うことができるか不安に感じております。ただ、子どもたちには、真の生きる

力を身に付け、社会に巣立ってほしいと願う親の一人でもあります。元気な子どもを育むことが、元気な地域、元気な御殿場市に繋がると考えています。

知識も経験も未熟な私ですが、子どもを持つ等身大の母親の目線で、また、保護者の立場で、御殿場市のよりよい教育環境実現のために、精一杯努力してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

市指定研究 南中学校

特別支援教育研究発表会

十一月二日に南中学校での二年間にわたる特別支援教育の研究のまとめが発表されました。「かかわり合いの中で、自尊感情を高めていく生徒の育成」をテーマとして、静岡大学教育学部の小林朋子教授の御示唆をいただきながら、日頃の教育活動をユニバーサルデザインの視点から見つめ直し、環境づくり、人間関係づくり、授業づくりに取り組んできました。



南中学校では、どの教室も視界に入る刺激物を少なくする工夫がなされるとともに、生徒総会で決議されたスローガン「いじめ撲滅三箇条」が掲示されています。また、小中連携の取組として、黙働創自（もくどうそうじ）が継続されています。これらのことが、南中学校の落ち着いた学習環境、明るく、共感的な人間関係の実現につながっていると感じます。

授業では、「みんながわかるみんなができる授業」「学びの実感を感じられる授業」を目指しています。そのために、「課題」「追究」「確かめる」場面を明確にしたり、「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識したりして取り組んできました。

一年生の甲斐俊一先生の数学の授業は、一般の視力表では視力を測れない先生のために0.1以下の視力表(C型のランドルト環)を班で協力して作るという、課題を解決したくなる内容でした。その際、

プロジェクトで大きく提示した図は、課題を解決するために必要な「視覚化」となっていました。また、解決方法として、表と式とグラフが大切なことや、視力をx、ランドルト環の外周円の直径をyとして考えるとよいことを全体で確認したことで「焦点化」が図られ、どの子にも課題が明確になり、見通しをもつて授業に参加できていました。

班活動では、机をびったりとくっつけ、ホワイトボードを活用し、時には身を乗り出しながら相手に説明をしたり聞いたたりしていました。班の考えを教室全体に説明する場面では、後方の席の生徒にもホワイトボードの内容が見えるようにカメラで映したものが黒板に投影されていました。学習内容の理解につながる「共有化」となっていました。多くの場面で、普段の授業生活から互いを認め合うこと

を大切に行っている様子が伺えました。このような毎日の積み重ねがあり、研究成果にみられるような自尊感情の高まりにつながっています。

学校評価等から「わかる」「できる」と感じる生徒が増え、自信を持って授業に臨む生徒が増えたこと、意欲的・主体的に取り組む子どもの変化が見られたことは大きな成果です。子ども主体の活動を重視し、全職員で共通理解し、生徒に寄り添い、研究を進めてこられた成果と感じます。

南中学校の先生方には、真摯に研究に取り組んでいただき、ありがとうございます。本研究成果と課題を共有し、今後もチーム南中で研究の成果を生かしながら取り組んでいきたいと思います。

【指導主事 秋岡智子】

